

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立母衣小学校）

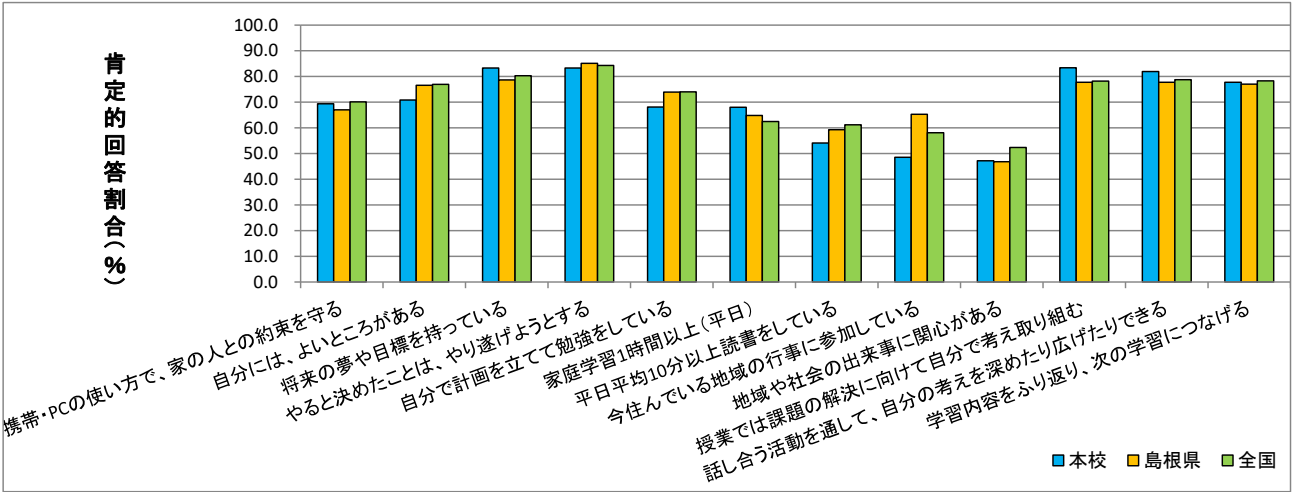
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○全体の正答率は、県を9ポイント、全国を7.3ポイント上回った。 「話すこと・聞くこと」の領域と、短答式の問題形式で、特に大きく上回っていた。 ●記述式の正答率が、最も低い。	・ICTの活用も含めた授業改善や、テストや毎月の書き取り会等を活用し、基礎基本的な学習内容の定着を図る。 ・他教科や領域でも、自分の考えを文章化したり、要約して説明したりする機会を多く設けるようにする。
算数	○全体の正答率は、県を8ポイント、全国を4.8ポイント上回った。 「変化と関係」の領域では、県を11.6ポイント、全国を9.3ポイント上回っていた。 ●記述式の正答率が、最も低い。 ●公式の活用や基準値を1とする問題は、正答率が低い。	・ICTの活用も含めた授業改善や、テストや毎月の計算会等を活用し、基礎基本的な学習内容の定着を図る。 ・公式のでき方を主体的に学んだり、数だけの計算ではなく、数直線や自分で考えた図のよさを味わえる学習を積み重ねる。

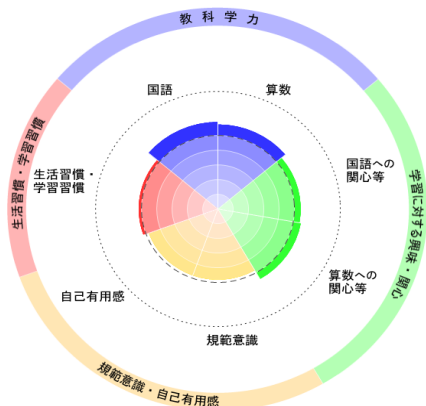
(2) 生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
	○授業では、問題解決の方法を自分でよく考え、級友との意見交換を通して考えを深めていくことができる児童が8割以上いる。 ○将来の夢や目標をもって生活している児童も8割以上いる。 ●地域の行事に参加する児童が5割未満で、県、全国の数値より低い。 ●自分のよさの自覚、計画的な家庭学習の達成が、7割前後とやや低い。	・全体発表だけでなく、ペアやグループでの意見交換を組み込みながら、誰もが自分の意見を発表でき、互いに学び合える場を設ける。その中で、友達と学習するよさ、自分の得意やよさにも気付けるようにする。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・ペアやグループ、ICTの活用も含めた対話的な学習を積極的に取り入れて授業改善を行い、基礎的な学力の定着を図る。
- ・児童にとって必要感や魅力のある課題を準備したり、学習のゴールを明確にするなどして、児童が意欲的に学習に取り組めるよう工夫する。
- ・自分の思いや考えを、自分に合ったやり方で素直に表現したり、友達の発表をきちんと聴いて受け止めたりする機会を設け、互いに学び合い、認め合えるようにする。

【受検者数】 72 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。